

## ●浜の話題

- 1月5日、横浜の日経ビルで今年度初の改善資金運営協議会が開催され、船外機を導入する案件と漁業経営開始資金を活用した船外機や漁具、GPS 魚探等を導入する案件が承認されました。12月の改善資金制度運営要領の改正に伴い、型式認定機器の基準が推奨要件に緩和され、活用しやすくなりました。漁労機器等の導入を検討されている方は、最寄りの普及員にご相談ください。
- 1月中旬から、横須賀市東部漁協横須賀支所では、本格的にワカメの収穫が開始されました。同支所の武丸さんでは1000本/日ほど収穫し、これらは主に塩蔵ワカメとして出荷するとのことでした。また、同支所のワカメ養殖グループが生産している早取りワカメ「さるひめ」についても、例年どおり1月上旬から収穫が行われています。



塩蔵ワカメ生産の様子

- 1月17日、小田原市漁協青年部は小田原漁港蓄養水面でアカモク養殖ロープの設置作業を行いました。昨年11月から生け簀で保管していたアカモク種苗の中には、既に2m以上に成長しているものもあり、収穫も期待できそうです。



アカモク養殖ロープの設置作業

- 1月21日、江の島片瀬漁協等で構成される江ノ島・フィッシャーメンズ・プロジェクト (EFP) は、水産多面的機能発揮対策事業の一環で、カジメの生育状況を確認しました。カジメの藻場は深場の岩礁において消失してしまいましたが、母藻を収めた網袋「スポアバック」の付近に芽が見られ、藻場の回復につながることを期待しています。



カジメの芽 (写真：EFP 提供)

- 1月25日、神奈川県しらす船曳網漁業連絡協議会は、平塚市漁協で通常総会を行いました。総会では役員改選があり、10年間にわたって就任した平塚市漁協所属の杉山会長（丸八丸）が退任され、江の島片瀬漁協所属の浜野会長（湘南丸）が就任されました。
- 1月26、31日、平塚市漁協は、海底耕耘を実施しました。水深3~6mの砂底域で海底耕耘機を曳き、海底を耕してチョウセンハマグリやダンバイキサゴ等の貝類の生育に適した底質に改善します。同漁協では、この作業をあと4回実施する予定です。



海底耕耘の様子

- 1月30日、横須賀市東部漁協浦賀久比里支所の臼文丸さん（浦賀出張場）では生ワカメの無人販売を行っています。臼文丸さんによると、袋詰めしたワカメ（約300g/袋）を700~1000袋/日ほど用意しても、午前中で完売してしまう日もあるとのことでした。なお、同支所では今年は例年よりもワカメの成長が遅く、本格的なメカブの販売については、来月以降とのことでした。

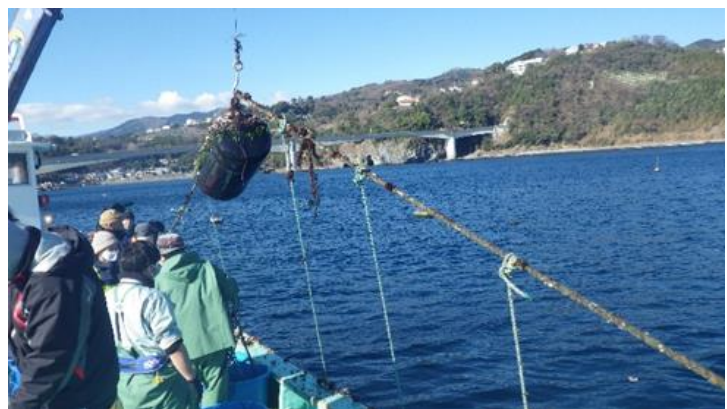


ワカメの無人販売の様子

- 1月30日、岩漁協と真鶴町漁協は藻場再生に向け、岩沖でカジメ養殖試験を開始しました。相模湾試験場が生産したカジメ種苗を養殖用ロープに挿した後、イワガキの養殖筏に垂下しました。今後は定期的に生育状況を確認していくそうです。



種挿しの様子



養殖筏へのロープ設置の様子

- 1月31日、長井町漁協「相模のとらふぐ」生産者グループ「福会」に、当センター栽培推進部研究員より、トラフグ種苗生産の新たな取り組みについて、提案と協力要請がありました。長井で産卵期に水揚げされたトラフグ親魚から人工的に卵を得ようとする取り組みで、天然魚由来の良質な種苗の安定供給に繋がることが期待されます。漁業者の期待も大きく、人工採卵に適した産卵親魚の提供について、福会として全面協力することになりました。



人工採苗による種苗生産に漁業者も期待を寄せております

- 1月31日、神奈川県漁連及び水産課が漁業就業希望者を対象として令和4年8月に開校した「令和4年度かながわ漁業就業促進センター」の修了式が、神奈川県漁連で執り行われました。県漁連会長から、修了生に修了証書が激励の言葉と共に授与されました。修了生の内2名の方は、小坪地区のしらす漁や、真鶴町漁協自営定置網に就業されました。8月以降、本センターの座学や実地研修で各浜の皆様には大変お世話になり、誠にありがとうございました。

かながわで漁師になるには／県水産課ホームページ <http://www.pref.kanagawa.jp/docs/kb2/syugyou/index.html>



修了証書授与式の様子

- 2月1日、「県のたより」2月号に、みうら漁協金田湾販売所 金田湾朝市部会の高木丸さんが、三浦半島のわかめの紹介記事で掲載されました。今の時期はしゃぶしゃぶ等でおいしい生わかめが、同朝市や各浜の直売所等で直売されているので、ぜひご利用ください。

県のたより2月号 <https://www.pref.kanagawa.jp/tayori/2302/001.html>

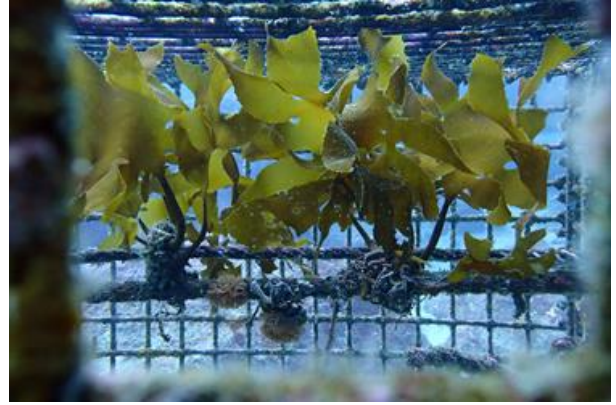
- 江の島片瀬漁協は、フジテレビ「フューチャーランナーズ」の取材を受け、水産多面的機能発揮対策事業の江ノ島・フィッシャーマンズ・プロジェクト（EFP）による藻場保全活動について紹介しました。番組は2月1日（水）に放送されました。

- 2月4日、茅ヶ崎市漁協は、茅ヶ崎漁港において「生わかめまつり」を開催しました。烏帽子岩付近の潮通しのよい漁場で養殖したワカメのほか、地先で漁獲されたハマグリやサザエ、イセエビ等を販売しました。ワカメは、黒潮による高水温の影響で生育が心配されましたが、家庭で調理しやすい大きさに育ち、約300人にのぼる来訪客にご購入いただき、あっという間に完売いたしました。ワカメは「柔らかくて美味しい、また買いたい」との感想も後日に多数寄せられたようです。



生わかめまつりの様子

- 2月8日、9日小田原藻場再生活動組織は藻場のモニタリングと母藻礁のメンテナンスを行いました。継続的な活動により藻場が再生することを期待しています。



母藻礁メンテナンスの様子

●お知らせ

- 令和4年度第2回漁業体験研修のお知らせ

漁業に就業したい方を対象に、漁船に乗り込み漁業現場の見学や体験をして、漁業への理解を深めていただく研修会を水産課が開催します。

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/kb2/syugyou/r4taiken2.html>

申込期限 令和5年2月20日（月曜日）まで